

コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社

2018年通期業績予想の修正 補足説明資料

2018年10月10日



将来の業績に関する見通しについて

本資料に記載の事業計画、業績予想、および事業戦略は、本資料配布時点での情報を考慮した上でのコカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社（以下CCBJHまたは当社）経営陣の仮定および判断に基づくものです。これらの予想は、以下のリスクや不確定要因により、実際の業績と大きく異なる可能性があることに留意してください。

なお、リスクおよび不確定要因は以下のものに限られるものではありません。CCBJHの有価証券報告書等にも記載されていますので、ご参照ください。

- ・ ザ コカ・コーラ カンパニーおよび日本コカ・コーラ株式会社との契約
- ・ 製品の品質・安全性
- ・ 市場競争
- ・ 天候、災害、水資源等の自然環境
- ・ 法規制
- ・ 情報漏えい・消失
- ・ 個人消費動向、為替レート、原材料費、保有資産等の時価等、経済状況の変化による影響
- ・ 経営統合、業務プロセスの効率化・最適化による影響
- ・ 上記以外の不確定要因

本資料の情報は、情報の提供を目的としており、CCBJH発行の証券への投資勧誘を目的するものではありません。

また、CCBJHは新しい情報あるいは将来のイベントにより、本資料の内容を更新する義務を負いません。皆様におかれましては、CCBJH発行の証券に投資する前に、ご自身の独立した調査に基づいて判断をお願いいたします。





2018年 通期業績予想の修正

通期業績予想修正の概要

- ・ 当初計画比、売上高△420億円、営業利益△227億円、当期純利益△198億円
平成30年7月豪雨の被害や上期のトレンド継続の影響により、業績予想を修正。
主な要因は以下のとおり
 - ・ 年換算約2,200万ケースの製造能力喪失、全エリアにわたる製品供給体制見直しに伴い輸送コストが増加
 - ・ アセプティック(無菌充填)製品の急成長により供給制約が発生
 - ・ チャネル／パッケージミックスの悪化継続
 - ・ 被災した資産と在庫の廃棄損等84億円を特別損失に計上予定
- ・ 配当予想：1株当たり年間50円から変更なし(中間25円、期末予想25円)
- ・ 2018年のシナジー創出計画80億円(ネット)に対し、計画どおり進捗
- ・ 引き続き統合を推し進めながら、中期事業計画の達成に必要な投資を精査中。
株主価値向上を重視した戦略に変更はない



(参考) 本郷工場の被害状況と現状

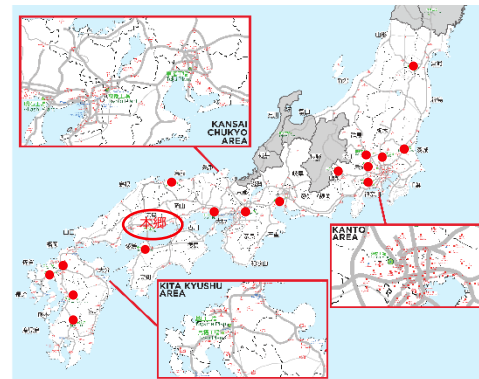
本郷工場(広島県三原市)設備概要

- 3つの製造ラインがあり、全体の約5%の製造能力を持つ
 - アセプティック（無菌充填）PET、炭酸PET、コーヒー（缶/ボトル缶）
- 隣接の物流拠点は自動倉庫を備えたエリアの中核物流拠点
 - 被災時、最盛期に備えた製品在庫約150万ケースを保管

現在の状況（2018年10月時点）

- 製造設備3ラインすべて操業不能
- 自動倉庫機能停止
- 工場敷地内の社員寮居住不能
- 浸水被害を受けた製品在庫は廃棄
- 被災地域内で2,000台以上の自動販売機、クーラーなどが被害
- 交通網は依然として困難な状況ではあるが改善傾向

当社エリア内17工場



被害は広範囲に及んだ



本郷工場出荷エリア
(7月7日時点)



本郷工場倉庫内
(7月9日時点)



新たな通期業績予想

	期初発表予想 (2018年2月)	修正後予想 (2018年10月)	差異
売上高	1,007,300	965,300	-42,000
飲料事業販売数量 前期比	+2%	-2%	-400 bps
営業利益	49,700	27,000	-22,700
税金等調整前当期純利益	47,700	17,300	-30,400
当期純利益	28,800	9,000	-19,800
1株当たり当期純利益 (EPS)	149.66 円	46.77円	-102.89円
1株当たり配当	50 円	50 円	変更なし

飲料事業	期初発表 予想	修正後 予想	差異	ヘルスケア・ スキンケア事業	期初発表 予想	修正後 予想	差異
売上高	975,700	937,600	-38,100	売上高	31,600	27,700	-3,900
営業利益	46,000	23,300	-22,700	営業利益	3,700	3,700	-

単位：EPS、1株当たり配当除き百万円

当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益



通期業績予想修正の主要因

飲料事業 販売数量への影響：当初計画比約△2,000万ケース

平成30年7月豪雨の影響
△1,100万ケース

ビジネストrend／アセプティック製品の供給制約
△900万ケース

・売上高減少の主要因

- ・ 被災による本郷工場製造設備と物流拠点の稼働停止、主要な交通網寸断
- ・ お得意さま優先の活動実施により、ベンディングチャネルの販売に影響
- ・ アセプティック製品需要の急増と製造能力喪失への対応としてSKU数を調整
- ・ ベンディングチャネルと缶コーヒーの軟調継続によるチャネル・パッケージミックス悪化

・輸送コストの増加

- ・ 他エリアから中国エリアへ供給を継続すべく、全エリアの供給体制を見直し
- ・ トラック・ドライバーの不足、輸送距離の長距離化、輸送頻度の増加による影響

・その他

- ・ 市況影響の継続（PET、アルミ等の原材料コスト増）

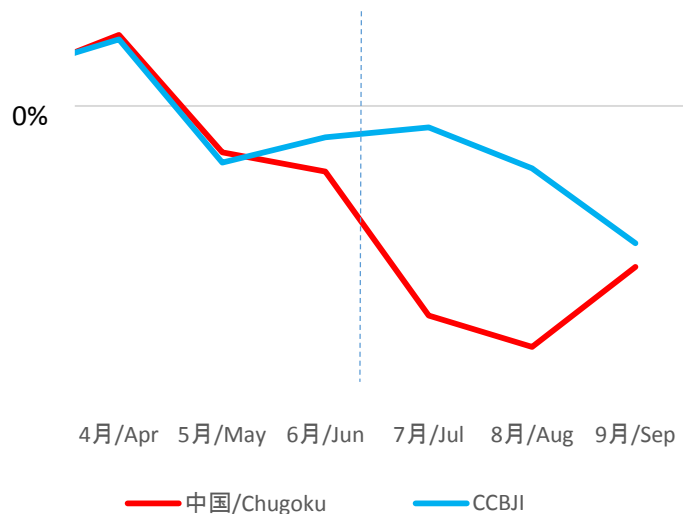
・特別損失「災害による損失」：84億円

- ・ 資産・在庫等の廃棄損等



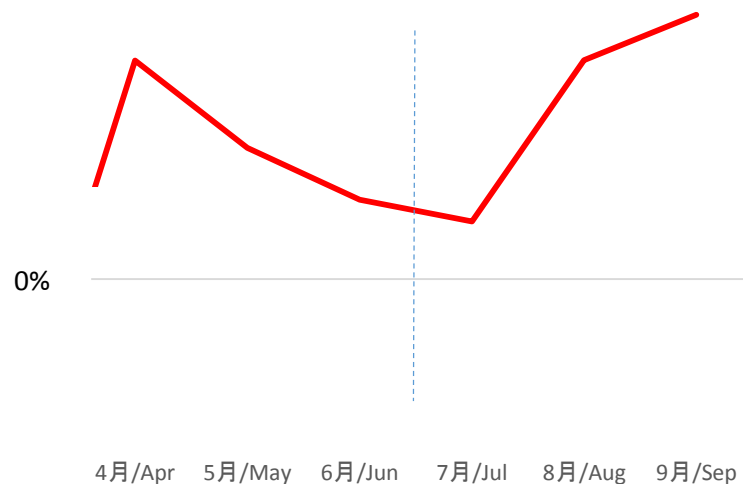
(参考) 販売数量および輸送費の動向

月次販売数量（前年同期比）



チャネル/パッケージミックス悪化、アセプティック製品の供給力不足、中国エリア供給維持のためのサプライチェーン体制見直しにより、全エリアの販売数量に影響。

ケース当たり輸送費※（前年同期比）



4月：アセプティック製品の需要急増に対応すべく供給体制を見直し
7月以降：本郷工場被災対応によりさらなる供給体制の見直しを実施

※当社拠点間の1ケース当たり輸送費



復旧の状況

物流／ 配送

- 本郷工場に隣接する物流拠点と外部倉庫の活用により、広島地区の全11営業拠点を含む中国エリアへの物流機能は回復済
- トラック不足は改善しつつあるが、輸送コストの高騰は継続



本郷工場正門付近（9月13日時点）

製造設備

- 中国エリアの製造能力の復旧を含め、製造能力を2020年春までに段階的に拡張する計画を、本日開催の取締役会で承認
- 本郷工場では被災した設備の撤去・清掃等を継続。一部従業員は一時的に他工場の増産支援に従事



本郷工場倉庫内（8月14日時点）

製品供給

- 供給制約は解消しつつあるものの、一部製品の供給制約は来年まで残る見通し

販促活動

- お得意さまに中止を依頼していたPET製品のチラシ販促は、11月から再開を依頼
- トクホ製品と缶コーヒーの重点新製品を第3四半期に発売





今後の予定

今後の予定

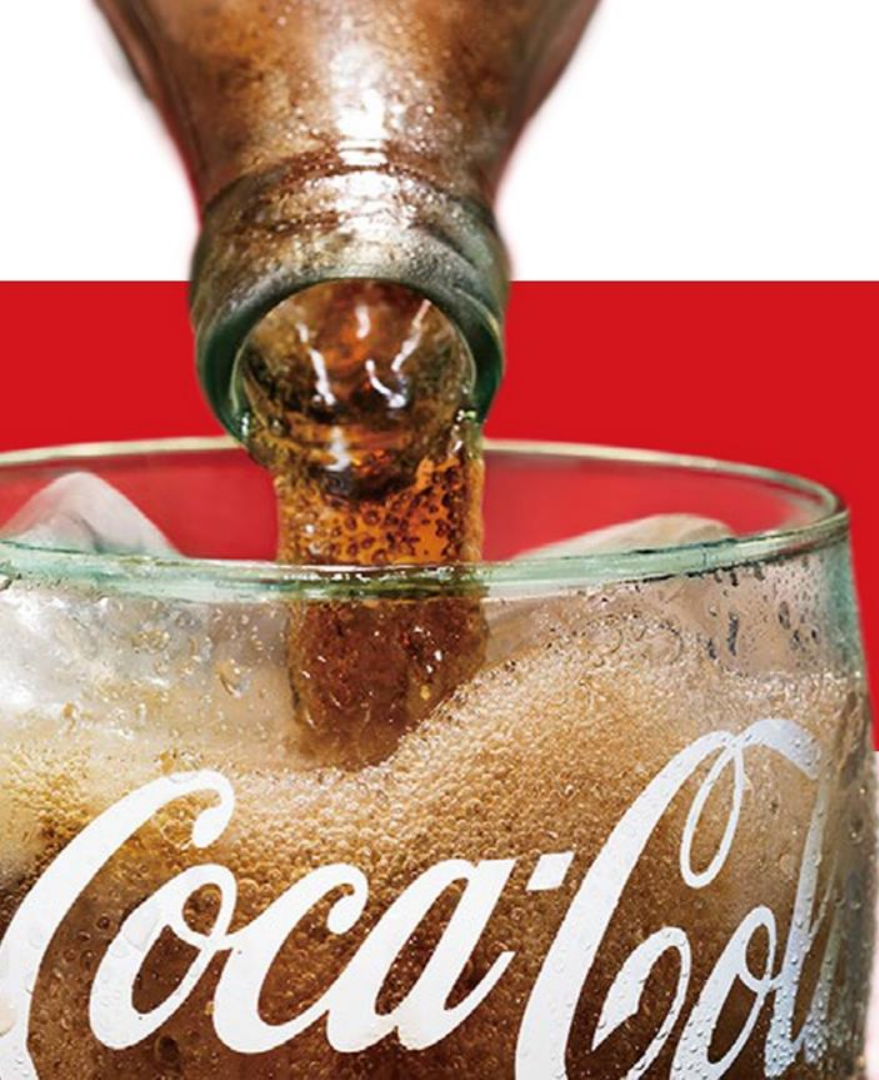
2018年11月

- 第3四半期決算発表：11月9日（金）
- 第3四半期決算説明会・ウェブキャスト：11月12日（月）

2019年2月

- 2018年通期決算発表(日本基準および国際会計基準)、
決算説明会・ウェブキャスト
- 2019年通期業績計画発表(国際会計基準)





THANK YOU

コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社
IR統括部

ir@ccbj.co.jp

03-5575-3797

<https://www.ccbj-holdings.com/ir/>

facebook: <https://www.facebook.com/ccbj/>

